

■コンニャクイモって、どんなイモ？

コンニャクは、「コンニャクイモ」というイモから作られる。このイモはサトイモの仲間なんだけど、ちょっとかわったイモだ。コンニャクイモを栽培すると、イモのまわりに小さなイモができる。これを、次の年の春に畑に植えると、秋にはひとまわり大きくなったイモがとれる。これを3年くりかえして、やっとコンニャクをつくれるような大きさに育つんだ。なんとも、長生きなイモだね。

もともとは東南アジアの植物で、日本には、千年以上もまえ、中国からやってきたといわれているよ。日本で一番たくさんコンニャクイモを作っているのは、群馬県だ。福島県は、4番目に多い。東白川・福島市・いわき市などでたくさん作られている。

■がんばって手に入れよう

コンニャクイモを手に入れるのは、なかなか大変だ。秋に手づくりコンニャクを作れるように、2年ぐらい育てたイモを手に入れて、育てよう。

- ・農家の人にわけてもらう。
- ・園芸店では売っていないけど、相談してみる。
- ・種苗会社の通信販売で買う。
- ・最後の手段！農業試験場に連絡をください。

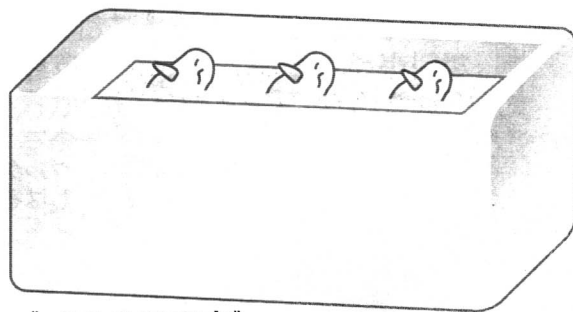
■プランターで栽培してみよう

プランターの大きさによって、栽培できるイモの数は決まるよ。めやすは、プランターに入る土の量だ。10リットルでイモ一つぶん。70cm位の、大きいプランターだと、3個は植えられる。

プランターじゃなくて、ふつうのバケツの底に穴をあけたもの（9ページを見てね）でもいい。このときはバケツ一つにイモ一つをうえる。

イモ植えは5月の中ごろ。プランター用の土に（作り方は9ページを見てね）、「化成肥料」をよくまぜる。土10ℓに15gくらいがめやす。70cmの大きなプランターだと、50gくらい入れる。これをプランターの深さの半分まで、まず入れる。ここに、芽を「ななめ上」に向けてイモをならべてから、その上に、プランターいっぱいになるように土を入れる。土の上に細かく切った「わら」や、「腐葉土」などをかけておけば、土が乾くのを防げる。これでイモ植えは終わりだ。

水は、土の表面が乾いたらあげよう。6月の中ごろ、「化成肥料」をペットボトルのふたに2はいくらい、土の表面にまこう。



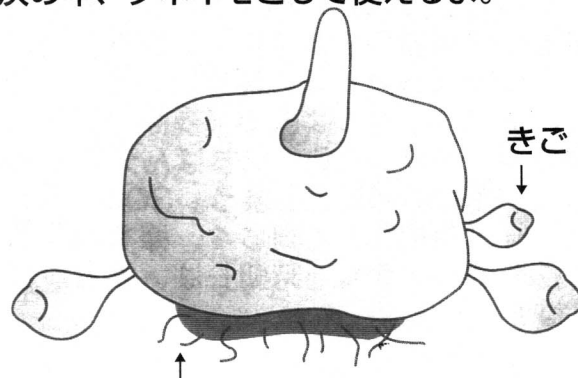
《イモのおき方》

芽が「ななめ上」を向くようにおいて、上に土をかぶせていく

■イモ掘りはどうする？

10月ごろになると、葉が黄色になって、クキが倒れる。そうになったら、イモを掘りだし、2週間くらい日かげでほしておく。それが終われば、いよいよ手作りコンニャクにチャレンジ！

大きなイモのまわりに小さなイモ（「きご」という）ができていた時は、バケツに入れた土にうめて、暖かい家の中（日が当たらない所）に置けば、次の年、タネイモとして使えるよ。



春にうえたイモはペシャンコになって下にはりついている

■まほうのクスリ

「水酸化カルシウム」

コンニャクを固めるのに必要な、大事なクスリだ。薬局で、取り寄せてもらおう。このクスリをどのくらいまぜるかが、大事なポイントだ。すりおろす前のイモのおもさを正確に計り、それを200で割った重さが、ちょうどよい量だ。クスリは、リサジすり切り1ばいで約2gなので、400gのイモをコンニャクにできる。これをめやすにしてね。